

# 令和5年度 1学期期末考查

78期第1学年

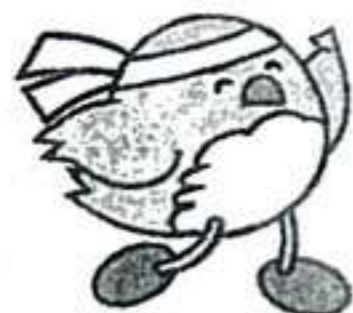
## 国語(言語文化) 100点 50分

令和5年6月28日(水) 2限

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙は、この冊子の間に挟んであります。
- 3 この問題冊子は7ページあります。問題は三問です。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を上げて監督の先生に知らせなさい。
- 5 解答用紙の氏名欄に必ず記名すること。
- 6 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄の枠内に1行で収まるように記入なさい。
- 7 楷書で丁寧に記入しなさい。判別不能の文字は採点対象外とします。
- 8 字数制限のあるものは、原則として句読点も一字に数えます。  
(指示のあるものは除く)。  
また、制限字数の8割に満たない解答は採点対象外とします。
- 9 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

	組		番	氏名	
--	---	--	---	----	--



大分県立大分上野丘高等学校



「二」次の文章を読み、後の問いに答えよ

今は昔、比叡の山に見ありけり。僧たち、商のつれづれに、「いざ、かいもちひ（「せ」む。」と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。X、し出ださむを待ちて寝ざらむも、（「わろかり」なむと Y1 で、片方に寄りて、（「寝」たるよしにて、（「出で来る」を待ちけるに、すでにし。出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

この児、さだめておどろかさむずらむと待ちあたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは Y2 ども、ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、◆いま一声呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつり Z。幼き人は寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、あなわびしと思ひて、いま一度起こせかしと思ひ寝に聞けば、ひしひしとただ食ひに食ふ音のしければ、すべなくて、無期の後に、「えい。」といらへたりければ、僧たち、（「笑ふ」こと限りなし。 （宇治拾遺物語）

問一 「二重傍線部 a 「青」・b 「出」・c 「無期」の二こでの読みを記せ。（現代仮名遣いで良い）

問二 傍線部 A 「し出ださむを待ちて寝ざらむも」・B 「念じて寝たるほどに」の解釈として最も適当なものを、次から一つずつ選び、記号で答えよ。

A…ア 作り上げるのを待つて寝たふりをするのも イ 作り上げるのを待つて寝ないのも

ウ 出してくれるのを待つて寝てしまうのも エ 作り出すのを待つて寝ているのも

オ 出してあげるのを待つて寝かせないのも

B…ア 心の中で折つて寝ていると イ 我慢しきれず寝てしまった時に ウ 我慢して寝ているうちに

エ 念仏を唱えて寝ている時に オ 我慢して寝ないでいる様子に

問三 （ ）内の I、V の用言を、①活用を行をカタカナで答え、②活用の種類、③活用形を次から一つずつ選び、記号で答えよ。

①…ア 四段活用 イ 上一段活用 ウ 上二段活用 エ 下一段活用 オ 下二段活用 カ 変格活用

キ ク活用 ク シク活用 ケ ナリ活用 コ タリ活用

②…サ 未然形 シ 連用形 ス 終止形 セ 連体形 ソ 已然形 タ 命令形

問四 空欄 X・Z に入る語として最も適当なものを、次から一つずつ選び、記号で答えよ。

X…ア さらば イ さるに ウ されば エ さりとて オ さながら

Z…ア たり イ けり ウ き エ て オ そ

問五 空欄 Y1・Y2 には、共にハ行四段活用動詞「思ふ」が入る。これを、空欄の真下の語とのつながりに着眼して適当な活用形に改めて記せ。

問六 ◆以降の本文の中から、児が口に出さず胸の中で思った内容に当たる部分を三つ、過不足なく抜き出して記せ。（順不同）

問七 傍線部①「心よせに聞きけり」・③「いらへたりければ」をそれぞれ現代語訳せよ。

問八 傍線部②「待ちけるかともぞ思ふ」とあるが、誰のどのような心情か。六十字以内で答えよ。

問九 この話を讀んだ五人の生徒が、本文の内容について解説している。この中で最も適当な解説をしている生徒を一人選び、A、E のアルファベットの順で答えよ。

生徒 A — この話は、児の心理描写を一切省略することによって、簡潔で無駄のない作品になっているよね。

生徒 B — 音声や気配の描写を多用することで、ためき寝入りする児の心の動きを実に効果的に表現していると言えるんじゃないかな。

生徒 C — 僧たちの様子にも注目してみると、比叡山の僧たちの、仏教者らしい高深な姿勢を暗に描いていると言えるね。

生徒 D — 僧たちのよそよそしい言葉遣いが、仲間外れにされがちな児の立場を暗示していると言えそうだよ。

生徒 E — 食欲で意地の悪い僧たちの振る舞いを赤裸々に暴き出した、痛烈な風刺物語となっていると考えられるよね。



【二】次の文章を読み、後の問いに答えよ。

これも今は昔、忠明といふ検非違使ありけり。それが（一）苦しける時、清水の橋のもとにて京童部どもといさかひをしけり。京童部、手ごと  
に刀を抜き、忠明を立てこめて殺さむとしけり。忠明も太刀を抜き、御堂さまに上るに、御堂の東のつまにも、<sup>①</sup>あまた立ちて向かひ合ひ  
たれば、内へ逃げて、藤のもとを脇に挟みて前の谷へ躍り落つ。藤、風にしぶかれて、谷の底に、<sup>②</sup>鳥のあるやうに、やをら（<sup>③</sup>落つ）にければ、  
それより逃げて（<sup>④</sup>往ぬ）けり。京童部ども谷を見おろして、あさましがり、立ち並みて（<sup>⑤</sup>見る）けれども、<sup>⑥</sup>すべきやうもなく、やみ  
にけりとなむ。

（宇治拾遺物語）

問一（ ）内のⅠ～Ⅳの用言を、適切な活用形に改めて記せ。

問二（ ）内のⅣの動詞「見る」と同じ活用種類の動詞を、本文中から一つ抜き出して記せ。

問三□の助動詞X・Yについて、（i）文法的意味と、（ii）活用形を答えよ。

問四傍線部①「あまた立ちて向かひ合ひたれば」を、言葉は補って現代語訳せよ。

問五傍線部②「鳥のあるやうに」とあるが、どのような様子の比喻か。二十五字以内で説明せよ。

問六傍線部③「すべきやうもなく」における京童部たちの心情を、本文全体をふまえて六十字以内で説明せよ。

【三】次の文章を読み、後の問いに答えよ。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さかきの造となむいひける。その竹の中  
に、もと光る竹なむ一筋ありX（けり）。Aあやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあ  
り。翁言ふやう、「ねが朝ごとく文ごとく見る竹の中におはするにて、知りぬ。子になりたまふべき人なめり。」とて、手にうち入れて、家へ持ちて  
α来ぬ。妻の姫に預けて養はす。うつくしきこと限りなし。いとをさなければ、籠に入れて養ふ。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけてのちに竹取るに、節を隔ててよごしに黄金ある竹を見つくること重なりぬ。かくて、翁やうやう豊かに  
なりゆく。

この児、養ふほどに、すくすくと大きになりまざる。三月ばかりになるほどに、<sup>①</sup>よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪  
Y（上ぐ）させ、装着す。帳の内よりも出ださす。いづき養ふ。この児のBがたち、けうらなること世になく、屋の内は暗き所なく光満ちたり。

翁、竹を取ることに久しくなりぬ。<sup>②</sup>勢ひ猛の者になりけり。この子いと大きになりぬれば、名を、三室戸斎部の秋田を呼びてつけさす。秋田、  
なよ竹のかぐや姫とつけY。

（竹取物語） 4

問一傍線部A「あやしがり」・B「がたち」の本文中での意味を、それぞれ答えよ。（用言は言い切りの形で答えること。）

問二網掛け二重傍線部Ⅰ「す」・Ⅱ「けれ」・Ⅲ「ぬれ」・Ⅳ「ず」・Ⅴ「つ」について、助動詞についてはそれぞれ《例》にならない、文法的意味と  
活用形を答えよ。ただし助動詞でないものについては解答欄に「X」と記せ。（空欄のものは採点対象外とする）

《例》過去・終止形



問三 網掛け二重傍線部 α「来ぬ」を、《例》にならって文法的に説明せよ。

《例》書きけり——力行四段活用「書く」連用形+過去の助動詞「けり」終止形

問四 空欄 X「けり」・ Y「上ぐ」について、前後のつながりから考えて適当な活用形に改めて答えよ。

問五 傍線部①「子になりたまふべき人なめり」とあるが、翁がどのように考えたのはなぜか。その理由を本文中から二十字以内で過不足なく抜き出し、初めと終わりの五字で答えよ。

問六 傍線部②「よきほどなる人」・③「いつき養ふ」の意味として最も適当なものを、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えよ。

- |            |                  |              |           |
|------------|------------------|--------------|-----------|
| ②「よきほどなる人」 | …ア 最上級の美しい人      | イ 思慮深く教養のある人 | ウ 優れた人格の人 |
| ③「いつき養ふ」   | …エ 貴族の娘とするのに適当な人 | オ 一人前の大きさの人  |           |
|            | …イ 身を清めて仕える      | イ つききりで世話をする | ウ 大切に育てる  |
|            | エ 神として敬い崇める      | オ 神聖な場所でお仕える |           |

問七 傍線部④「勢ひ猛の者になりけり」とあるが、なぜか。四十字以内で答えよ。

問八 以下は、生徒と教師が、『竹取物語』に関して話し合っている場面である。これを読み、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

生徒S 『竹取物語』という作品が、はるか昔の平安時代に生まれたなんて驚きです！元になった話はあるんですか？

教師I そうですね。どちらが先に書かれたのかは分かりませんが、『竹取物語』と類似した話が『今昔物語集』にありますよ。冒頭部分を取り上げた【資料】を見てみましょう。

【資料】『今昔物語集』「竹取の翁、女児を見つけて養ふ話」

今は昔、<sup>1</sup>天皇の御代に一人の翁ありけり。竹を取りて籠を造りて、要する人に与へて、その功を取りて世を渡りけるに、翁、籠を造らむがために、<sup>2</sup>篋に行き竹を切りけるに、篋の中に一つの光り、その竹の節の中に、三寸ばかりなる人あり。

翁、これを見て思はく、「我、年ごろ竹取りつるに、今かかるものを見つけたること」を喜びて、片手にはその小さき人を取り、いま片方に竹を荷なひて家に帰りて、妻の煙に、「篋の中にして、かかる女児をこそ見つけたれ」と言ひければ、煙も喜びて、初めは籠に入れて養ひけるに、三月ばかり養はるる、例の人になりぬ。その児、やうやく長大するまゝに、世に並びなく端正にして、この世の人とおおぼえざりければ、翁、煙、いよいよこれをつきける間に、このこと世に聞こえ高くなりてけり。

しかる間、翁また竹を取らむがために、篋に行きぬ。竹を取るに、そのたびは竹の中に金を見つたり。翁、これを取りて家に帰りぬ。しかれば、翁たちまちに豊かになりぬ。居所に宮殿・樓閣を造りて、それに住み、くさぐさの財、庫倉に充ち満てり。まゝ眷属あまたになりぬ。また、この児をまうけてよりのちは、ことにふれて思ふやうなり。しかれば、いよいよ愛しかしづくこと限りなし。

【注】1 天皇の名前は不明であるため□としている。 2 篋：竹やぶ・竹林。 3 眷属：付き従う者、従者。

生徒A 冒頭部分の話の展開は『竹取物語』本文と『今昔物語集』ではほぼ同じだけど、①本文の描写に注目すると相違点もありますね！

教師I そうなんです。授業中に、かぐや姫に対する翁の言動・心情を確認していったからこそ相違点が見えますよね。『竹取物語』と『今昔物語集』ではなぜこのような違いがあると思いますか？

生徒S もしかして、『竹取物語』の文学的ジャンルは I、『今昔物語集』の文学的ジャンルは「宇治拾遺物語」と同じ II という、ジャンルの違いが、人物描写の違いにも関係しているんじゃないですか？

教師I おお、良い気づきですね！『竹取物語』は絵本や歌舞伎、映画など、現代でも様々な形で読み継がれているので、各種作品が生まれた時代や、それぞれがテーマとしていることの違いなどに注目してみると、面白いかもしれませんよ。



(i) 傍線部①とあるが、『竹取物語』の本文と、『資料』『今昔物語集』の文章との相違点として間違っているものを、次から一つ選び、記号で答えよ。

ア かぐや姫を発見した際、『竹取物語』では、翁がかぐや姫を我が子として育てようとしたことが強調されているが、『今昔物語集』ではただ見つけたことが描かれるにとどまっている。

イ かぐや姫を家に連れ帰る際、『竹取物語』では大事なものをいとおしむ気持ちが描かれているのに対し、『今昔物語集』では片手で連れ帰ったという描写のみとなっている。

ウ かぐや姫が成長した際、『竹取物語』では髪上げ・装着・命名といった成長に伴う貴族式の儀式を行ったのに対し、『今昔物語集』では成長に伴う儀式が一切描かれていない。

エ かぐや姫の扱いについて、『竹取物語』では最初からかぐや姫の愛らしさが語られ、翁たちに大切に育てられたことが窺えるのに対し、『今昔物語集』ではかぐや姫が翁たちに幸いをもたらす存在であるため、かぐや姫を大事にしたと解釈できるような書き方になっている。

オ かぐや姫の神秘性について、『竹取物語』では翁の気分が優れない時や腹立たしい時に、かぐや姫を見るとおさまったという描写があったが、『今昔物語集』ではかぐや姫の神秘的な力がうかがえる描写が全て省略されている。

(ii) 空欄 I・II に入る文学的ジャンルについて、I は「二字以上四字以内」で、II は「二字」でそれぞれ答えよ。